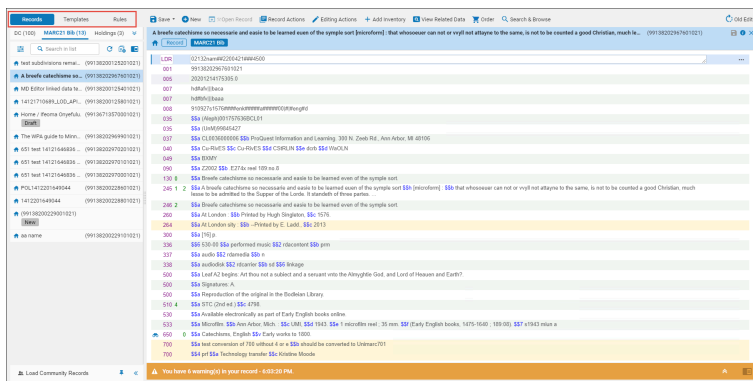


レコードの操作

メタデータエディタのレコード領域は、書誌、所蔵、典拠レコードなどのさまざまなレコードを目録化するように設計されており、さまざまなスタッフのスキルレベルを柔軟に処理し、すべてのユーザーが最も効率よく作業できるようにします。レコード領域には、動的メニュー、ナビゲーションツール、および色分け、分割画面、検索、ブラウジングなどの堅牢なレコード編集ツールが用意されています。

メタデータエディタはHTMLエンコーディングを使用するため、「>」の入力は「>」に変換されることに注意してください（>は「大なり記号」のhtml記号であるため）。

詳細については、[メタデータエディタでのレコードの編集（6:00分）](#)と[メタデータエディタでアクションを記録する（3:23分）](#)をご覧ください。



メタデータエディタは機能的な操作領域を記録します

メタデータエディタを開くと、新しいレコードを作成するか（[レコード領域のメニューバー](#)を参照）、ナビゲーションペインから既存のドラフトレコードを選択できます。

さまざまなタイプのレコードの操作の詳細については、以下を参照してください。

- [書誌レコードの操作](#)
- [所蔵レコードの操作](#)
- [典拠レコードの操作](#)

レコードのサイズ制限

- レコードの最大サイズは1MBです。
- 最大レコード内の個々のフィールドのサイズは32KBです（このフィールドが属するレコードが1MB未満）。

これらの制限を超えるレコードは、メタデータエディタに保存できません。

作業中にロックされたレコード

リポジトリ内でレコードを編集用に開くと、チェックアウトされます。これにより、他のユーザーが同じレコードを変更したり、変更を上書きすることができなくなります。さらに、ロックされたレコードインポートで上書きしたり、更新ジョブで更新したりすることはできません。

レコードを編集しようとする他のユーザーには、「ロック中」の表記が表示されます。



編集中のレコードで [\[レコードの解除\]](#) または [\[レコードを保存して解除\]](#) を実行せずにMDエディターを終了すると、レコードが画面左側に残ります。他のユーザーがレコードを使用からロックアウトされる時間を制御するには、`working_copy_lock_timeout`設定を設定します（詳細については、[working_copy_lock_timeout](#)を参照）。デフォルトの時間は1時間です。

MDエディタで編集したレコードは、解除されるまで画面左側に表示され続けます（詳細については[レコードの解除とレコードを保存して解除](#)を参照）。もしくは、レコードの`working_copy_lock_timeout`設定の有効時間が切れるまで待ち、その後、別ユーザーがレコードを編集します。レコードの作業が終わったら、レコードを保存して解除（保存メニュー）を選択して、レコードを解除してください。

編集中のカーソルの配置

MDエディタでは、フィールドの編集時に柔軟なカーソル配置が可能です。フィールド内の任意の場所にカーソルを置いて編集を開始することができます。

ドラフトレコード

元のレコードに**変更**を加えて下書きとして保存するか、保存せずにリストに残すと、編集したバージョンが下書きレコードとして保存されます。

- レコードに**変更**を加えたが保存しなかった場合、**変更**は自分のみに適用されます。他のユーザーには、**変更前**のレコードバージョンが表示されます。
- レコードに**変更**を加えて保存した が公開していない場合、**変更内容**は他のユーザーに表示される下書きレコードに反映されます。

レコードのドラフト状態は、以下のいずれかが最初に発生するまでシステムに保持されます。

- 過去30日以内にドラフトに**変更**が加えられた場合、ドラフトレコードは最大1年間保持されます。ただし、過去30日間**変更**されていないドラフトレコードは読み込まれず、リストに表示されません
- または、ドラフトレコードが公開されるまで
- または、他のユーザーがドラフトレコードの編集を開始するまで

つまり、元のレコードに**変更**を加え、下書きとして保存したか、保存せずにリスト内に残した状態で、かつリリースせず、他のユーザーも編集していない場合、このレコードの下書きはAlmaデータベースに最大1年間保持されます。この期

間中に（検索結果などから）レコードを選択して編集しようとする、Almaは既存の下書きを読み込むため、中断した箇所から作業を継続できます。

リストには、最大200の最新のドラフトレコードが表示されることに注意してください（[レコードをメタデータエディタにプッシュする](#)を参照）。

リリース ドラフトレコード

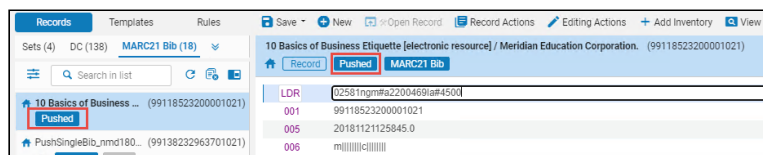
ドラフトリストから一度に1つのレコード（レコードをリリースするを参照）をリリースするのに加え、リスト内のすべてのレコードをリリースするアイコンを使用してドラフトリストからすべてのレコードをリリースできます。



リストアイコンのすべてのレコードをリリースする

プッシュされたレコード

〔レコード〕領域では、一部のレコードが「プッシュ済み」として識別される場合があります。これは、レコードがAlmaの別の機能からメタデータエディタのキューに入れられたことを示します。例えば、リポジトリ検索を行う際、メタデータエディタで参照および操作する複数のレコードを決定します。



レコードをMDエディタにプッシュするには：

- 検索結果のリストからこれらのレコードを選択し、**[選択項目をMDEにプッシュする]**を選択します。これにより、これらのレコードがメタデータエディタのドラフトレコード領域にプッシュされます。詳細については、[メタデータエディタへのレコードのプッシュ](#)を参照してください。

Note

[選択項目をMDEにプッシュする]を使用してメタデータエディタにプッシュすると、アクションの完了を妨げるエラーは、レコードの選択を解除しなくなります。これにより、ユーザーは選択したレコードを引き続き表示し、必要に応じてアクションを再試行できるようになります。

レコードをメタデータエディタにプッシュする

[検索結果](#)ページから、1つまたは複数のレコード（1回のプッシュで最大200レコード）をメタデータエディタにプッシュできます。レコードをプッシュすると、レコードが関連するメタデータエディタ形式リスト（MARC 21、UNIMARCなど）に追加されます

以下の理由により、レコードがメタデータエディタにプッシュされません。

- 目録者権限が不十分です（[目録権限](#)を参照）。
- レコードは現在別のユーザーによってロックされています（[ロックされた表記](#)を参照）

メタデータエディターで開くレコードの制限は、フォーマット（MARC21、UNIMARCなど）ごとに200件です。レコードをMDエディターにプッシュする場合：

- 開いているレコードが200件未満の場合、それらはメタデータエディターにプッシュされます。200件を超えるレコードはリスト内の最も古いレコードを削除します。
- メタデータエディターで既に開いているレコードをプッシュすることを選択した場合、それらはプッシュされ、200件のレコードのカウントに含まれます。

過去30日間に変更されなかったレコードリストのレコードは、リストに200件未満のレコードがある場合でも、ロードされず、レコードリストに表示されません。これらのレコードを表示するには、[ドラフトレコード](#)を参照してください。

? 索結果からレコードをメタデータエディターにプッシュするには：

- 単一のレコードをプッシュするには、レコードアクションリストで[MDEにプッシュする]を選択します。
- 複数のレコードをプッシュするには、レコードを選択し、検索結果で[選択項目をMDEにプッシュする]を選択します。

Note

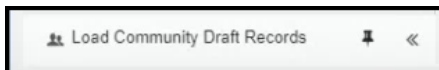
[選択項目をMDEにプッシュする]を使用してメタデータエディターにプッシュすると、アクションの完了を妨げるエラーは、レコードの選択を解除しなくなります。これにより、ユーザーは選択したレコードを引き続き表示し、必要に応じてアクションを再試行できるようになります。

コミュニティレコードの読み込み

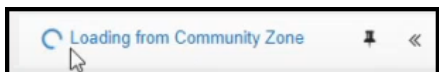
(レコード一覧のみ)

コミュニティゾーンからのドラフトレコードの読み込み：

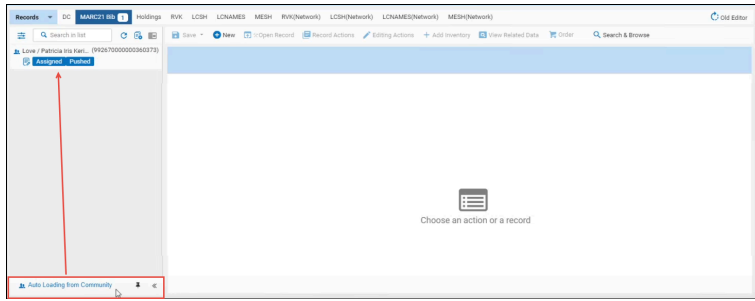
- 編集を待っているコミュニティゾーンにドラフトレコードがあるかどうかを確認するには、ナビゲーションペインの下部にある [コミュニティゾーンレコードの読み込み] ボタンを選択します。



- レコードの読み込みにはしばらく時間がかかる場合があります。その場合、ボタンのテキストがコミュニティゾーンから読み込み中に変わり、クリックできなくなります。



- レコードが読み込まれたら：
 - コミュニティゾーンから読み込まれたレコードは、レコードリストに表示されます。ボタンが[自動-コミュニティゾーンからの読み込み]に変わり、クリックできなくなります。



- ロードするレコードがない場合（または最後のコミュニティレコードがリストから解放された後）、ボタンは初期状態の[コミュニティゾーンレコードのロード]に戻り、後で戻って再試行できるようになります。

MDエディタでレコードを保存

MDエディタには、下書きを手動で保存する前に変更が紛失しないようにする自動保存機能があります。自動保存は変更後30秒ごとに行われます。下書きレコードは、作業中のユーザーのみが編集でき、Webセッションの間、持続的に作用します。30日間変更がない場合、下書きレコードは削除されます。

リポジトリにレコードを保存すると、Almaは以前のバージョンを自動的にバックアップし、今後の参照のために保存します。開いているレコードをリポジトリで保存して解除した後でも、以前のバージョンは引き続き使用でき、リポジトリに復元することができます。以前のバージョンを復元すると、リポジトリ内の現在のバージョンが上書きされます。詳細は[バージョンを見る](#)を参照してください。

レコードでの作業が終了したら、[保存]メニューからレコードを保存するか、Ctrl+Sを押します。変更されたレコードはリポジトリに保存されますが、リリースが明らかになるまでチェックアウトされたままになります（[保存] > [レコードを保存して解除]）。

またはリポジトリから元のレコードをリロードすることもできます。これにより、現在の下書きがレコードの現在のバージョンに置き換えられ、行った変更は削除されます。レコードはチェックアウトされたままです。

レコードの編集集中に、レコードをチェックインせずにドラフトレコードを保存することもできます（[保存] > [ドラフトの保存] または Ctrl + Alt + Sを押します）。

目録許可レベルを実装した場合のレコードの保存に関する追加情報については、[目録権限](#)を参照してください。

保存時に正規化する

MDエディタでレコードを保存すると、次の正規化が処理されます。

- 035フィールドは（003フィールドが存在する場合）001および003フィールドから派生しています
- 新規レコードの場合、001値は元のシステムID（MMS ID）として保存されます
- 既存のレコードの場合、001フィールドはMMS IDで更新されます
- 008フィールドが存在する場合は更新されます。
- 005フィールドが更新されます
- LDR（リーダー）フィールドの一部（主にレコードの長さ）が更新されます
- 保存時にMARC 21書誌の正規化 もしくは 保存時にMARC 21所蔵の正規化における保存プロセス/タスクのカスタム構成の追加情報については、例えば、機関によって処理されます（詳細については、[正規化プロセスの操作](#)を参照してください）

テンプレートからレコードを展開

指定されたテンプレートを使用して、レコードのデータフィールドを展開します。レコードのタイプは、書誌、所蔵および典拠のいずれかです。MDエディタのレコードに [テンプレートから展開] オプションが適用されると、システムは次のプロセスを使用してレコードのデータフィールドを展開します。

- テンプレートのインジケータに関係なく、システムはタグに従ってすべてのテンプレートのデータフィールドをグループ化し、出現順序を維持します。
- 各テンプレートグループに対して、システムは以下を実行します。
 - インジケータに関係なく、システムは、テンプレートグループのタグに一致するレコードのすべてのデータフィールドをグループ化し、出現順序を維持します。
 - 次に示すように、テンプレートのグループの最初のデータフィールドとレコードのグループの最初のデータフィールド間で次の比較を実行します。(各グループの次のデータフィールドなどが続きます)
 - テンプレートのデータフィールドに、対応するレコードのデータフィールドにないサブフィールドが含まれている場合、サブフィールドは対応するレコードのデータフィールドに追加されます。
 - レコードのグループに対応するデータフィールドがない場合、テンプレートのデータフィールド全体がレコードに追加されます。

例として、テンプレートのグループに次のデータフィールドが含まれている場合は次の通りです。

```
フィールド 1: 260 _3 $$a Boston $$c 1971
Field 2: 260 _3 $$a Boston $$c 1973
```

また、レコードのグループに一致するデータフィールドが1つだけ含まれている場合は次の通りです。

```
フィールド 1: 260 __ $$a New York
```

システムはテンプレートのグループの最初のデータフィールドのサブフィールドを、レコードのグループの最初の対応する (インジケータを無視した) データフィールドに追加します。書誌レコードには2番目に一致するデータフィールドがないため、テンプレートのグループから完全な2番目のデータフィールドをレコードに追加します。

```
260 __ $$a New York $$c 1971
260 _3 $$a Boston $$c 1973
```

テンプレートを使用したレコードの展開の詳細については、[テンプレートを使用したレコードの展開](#)の動画 (4分24秒) をご覧ください。

詳細については、[レコードテンプレートの操作](#)を参照してください。

レコードを展開する方法

1. MDエディタで展開するレコードを開きます。
2. [アクションの編集 > テンプレートから展開] を選択して、テンプレートから展開ダイアログボックスを表示します。

この例では、次のテンプレートが使用されます。

Working on template -Expand	
LDR	#####npc#a22#####a#4500
008	#####19331982oc#####eng#d
245 1 1	\$\$h [videorecording]
260 1	\$\$a Boston \$\$b 1971 \$\$c 1975
260 1	\$\$a Boston \$\$c 1973

展開テンプレートの例

3. テンプレートから展開ダイアログボックスで、〔テンプレートの選択〕ドロップダウンリストからテンプレートを選択し、〔OK〕を選択してレコードを展開します。

Expand from Template

Choose Template: Expand ▼

テンプレートダイアログボックスから展開

次の図は、新しい008および260フィールドと、展開された245および260フィールドを含む展開レコードを示しています。

Working on -Beauty of Nature (99207936400521) , Created by admin	
LDR	00196nam#a2200085#u#4500
001	99207936400521
005	20171013134715.0
008	171013s2014#####000#0#eng#d
100 1	\$\$a David \$\$b 1937
245 1 0	\$\$a Beauty of Nature

Working on -Beauty of Nature (99207936300521) , Created by admin	
LDR	00196nam#a2200085#u#4500
001	99207936300521
005	20171013140100.0
008	171013s2014#####000#0#eng#d
100 1	\$\$a David \$\$b 1937
245 1 0	\$\$a Beauty of Nature \$\$h [videorecording]
260 1	\$\$a Boston \$\$b 1971 \$\$c 1975
260 1	\$\$a Boston \$\$c 1973

展開前後のレコード例

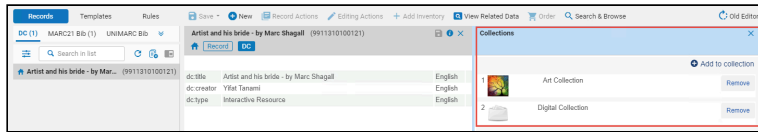
コレクションへのレコードの割り当て

コレクションを表示して割り当てるには、〔コレクション目録オペレータ〕の役職が必要で、その範囲は機関に限定される必要があります。

レコードが割り当てられているコレクションを表示し、コレクションへのレコードの割り当てと割り当て解除を行うことができます。

レコードをコレクションに割り当てる方法

1. MDエディタでレコード（MARC、Dublin Core、DCAP、ETD、またはMODS）を編集し、[関連データの表示] > [コレクションの表示] を選択します。[コレクション] タブが表示されます。



2. [コレクションに追加] を選択し、デジタルレコードを割り当てるコレクションを選択します。コレクションがコレクション画面に表示されます。
3. コレクションの割り当てを解除するには、[削除] を選択します（レコードがコレクションに追加されると表示されます）。
注：1つのコレクションのみに割り当てられているデジタルレコードに削除リンクが表示されないように、デジタルレコードは少なくとも1件のコレクションに割り当てる必要があります。

コレクションの詳細については、[コレクションの管理](#)を参照してください。

「外部プロセスが元のレコードを変更しました」コミュニティゾーンレコードを編集するときのメッセージ

メタデータエディタからコミュニティゾーンレコードを解放しようとする時、次のメッセージが表示される場合があります：「外部プロセスによって元のレコードが変更されました。元のレコードを再読み込みすることをお勧めします。」

このメッセージは、レコードがメタデータエディタで開かれている場合（つまり、ドラフトとして存在している場合）に表示され、開いている間に、別のプロセスがリポジトリ内のレコードを変更します。「他のプロセス」は、例えば、API、セット上で正規化プロセスを実行するジョブ、または典拠が優先する用語修正ジョブなどです。この変更による変更の結果、メタデータエディタでドラフトモードで開かれたレコードは、リポジトリに保存されたレコードとは異なります。

このメッセージは変更を通知し、レコードを再読み込みして最新バージョンを取得することをお勧めします。レコードをリロードするには、[レコードアクション]>[元のレコードを再読み込み]を選択します。

レコードエリアのメニューバー

メタデータエディタのメニューバーから、実行できるさまざまな機能に簡単にアクセスできます。これらの機能の詳細については、以下のセクションを参照してください。



レコードのメニューバー

アクション	説明
メニューを保存	保存を選択して作業を保存するか、その横にある矢印を選択して保存オプションのリストを開きます。
レコードを保存	変更はリポジトリに保存されますが、レコードは解除されません。変更されたレコードはリポジトリに保存されます。

アクション	説明																																																								
(Ctrl+S)	<p>が、リリースが明らかになるまでチェックアウトされたままになります（ [保存] > [レコードを保存して 解除] ）。</p> <p>他のユーザーには、（変更前に）このレコードの以前のバージョンが表示されます。</p> <p>レコードを解除せずにMDエディタを終了すると、レコードは左側のペインに残ります。これにより、他のユーザーが同じレコードを変更したり、変更を上書きしたりするのを防ぐことができます。 作業中にロックされたレコード を参照してください。</p>																																																								
レコードを保存して解除 (Ctrl+Alt+R)	レコードを保存および解除します。レコードを解除すると、メタデータ エディタの画面左側は使用できなくなります。																																																								
下書きを保存 (Ctrl+Alt+S)	<p>検証ルーチンを実行し、レコードを下書きとして保存します。変更は保存されますが、この時点でレポジトリ内では変更として更新されません。レコードはチェックアウトされたままであり、他の目録者が編集することはできません。</p> <hr/> <p>Note</p> <p>30日間変更がない場合、下書きレコードは削除されます。</p> <hr/>																																																								
テンプレートとして保存する	現在のレコードを繰り返し使用するために、テンプレートとして保存します。																																																								
<p>新しいメニュー</p> <p>[新規]メニューには、作成する可能性のあるさまざまなタイプのエンティティのテンプレートのリストが表示されます。このリストは、[新規]メニューに表示するように識別したテンプレートによって異なります。このリストは、テンプレート表示設定オプションを使用してカスタマイズできます。</p>																																																									
テンプレート表示設定	<p>新規作成メニューのテンプレートの表示・非表示を選択します。これにより、使用するテンプレートのみを表示し、使用可能なテンプレートのリストを短くすることができます。</p> <p>[新規]メニューに表示される テンプレートのリストをカスタマイズするには：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [テンプレート] 表示設定オプション（ [新規] メニュー）を選択します。テンプレート表示設定リストが開きます： <div data-bbox="383 1394 881 1625" data-label="Table"> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>Template Format</th> <th>Template Name</th> <th>Template Scope</th> <th>Template Type</th> <th>Template Status</th> <th>Display in Menu</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>DC AP01</td> <td>DCAP 1 template (Default)</td> <td>Shared</td> <td>Shared</td> <td>On</td> <td>On</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>DC</td> <td>Default (Default)</td> <td>Shared</td> <td>Shared</td> <td>On</td> <td>On</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>MARC21 Bib</td> <td>9C Prov Book (Default)</td> <td>Shared</td> <td>Shared</td> <td>On</td> <td>On</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>MOOS</td> <td>Default (Default)</td> <td>Shared</td> <td>Shared</td> <td>On</td> <td>On</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Holdings</td> <td>near default 20121031 (Default)</td> <td>Shared</td> <td>Shared</td> <td>On</td> <td>On</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>CATNEW</td> <td>Local Authority template (Default)</td> <td>Shared</td> <td>Shared</td> <td>On</td> <td>On</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>LCNAMES</td> <td>Personal Name (Default)</td> <td>Shared</td> <td>Shared</td> <td>On</td> <td>On</td> </tr> </tbody> </table> </div> <p>テンプレートの表示設定 ダイアログには、テンプレートに関する次の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ テンプレートフォーマット – これは、MARC 21、UNIMARCなどの目録規格を識別します。 ○ テンプレート名 – ユーザーまたはEx Librisが作成したテンプレートの名前を示します。 ○ テンプレートのスコープ – 機関、ネットワーク、コミュニティなどのテンプレートのレベルを示します。 ○ テンプレートタイプ – テンプレートが作成されると、そのテンプレートはプライベートまたは共有として識別されます。 ○ テンプレートのステータス – 南京錠の記号は、テンプレートがすぐに使用できるテンプレートであり、変更 	No.	Template Format	Template Name	Template Scope	Template Type	Template Status	Display in Menu	1	DC AP01	DCAP 1 template (Default)	Shared	Shared	On	On	2	DC	Default (Default)	Shared	Shared	On	On	3	MARC21 Bib	9C Prov Book (Default)	Shared	Shared	On	On	4	MOOS	Default (Default)	Shared	Shared	On	On	5	Holdings	near default 20121031 (Default)	Shared	Shared	On	On	6	CATNEW	Local Authority template (Default)	Shared	Shared	On	On	7	LCNAMES	Personal Name (Default)	Shared	Shared	On	On
No.	Template Format	Template Name	Template Scope	Template Type	Template Status	Display in Menu																																																			
1	DC AP01	DCAP 1 template (Default)	Shared	Shared	On	On																																																			
2	DC	Default (Default)	Shared	Shared	On	On																																																			
3	MARC21 Bib	9C Prov Book (Default)	Shared	Shared	On	On																																																			
4	MOOS	Default (Default)	Shared	Shared	On	On																																																			
5	Holdings	near default 20121031 (Default)	Shared	Shared	On	On																																																			
6	CATNEW	Local Authority template (Default)	Shared	Shared	On	On																																																			
7	LCNAMES	Personal Name (Default)	Shared	Shared	On	On																																																			

アクション	説明
	<p>できないことを示します。南京錠がない場合、テンプレートはローカルで作成され、共有テンプレートの場合には編集できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> メニューに表示 – スライダーは、テンプレートの[新規]メニューリストに表示するテンプレートが選択されているかどうかを示します。 <p>2. [メニューに表示]列で、スライダーを右に切り替えて、[新規]メニューのオプションのリストに表示されるテンプレートを選択します。 スライダーを左に切り替えて、[新規]メニューのオプションのリストでテンプレートを非表示にします。</p> <p>新しいテンプレートは、作業中のレコードから簡単に作成できます。テンプレートとして保存するを参照してください。</p>
配置オプション	<p>ネットワークゾーンコンソーシアムメンバーにのみ表示されます。 ローカルまたはネットワーク機関のどちらかで、新しいレコード、テンプレート、およびルールを保存する場所を選択します。この選択はユーザーごとであることに注意してください。</p> <div data-bbox="329 716 824 957" style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px;"> <p>Placement Options</p> <p>Placement of new records and templates</p> <p><input checked="" type="radio"/> Local <input type="radio"/> Network</p> <p>Placement of new rules</p> <p><input checked="" type="radio"/> Local <input type="radio"/> Network</p> <p style="text-align: center;"> <input type="button" value="Cancel"/> <input type="button" value="Save"/> </p> </div>
レコードアクションメニュー	
レコードを解除 (Alt+Shift+R)	変更を保存せずにレコードを解除します。レコードを解除すると、MDエディタの画面左側は使用できなくなります。
元のレコードを再読み込み	リポジトリに保存されているレコードの最後のバージョンで、アクティブなレコードを再読み込み（上書き）します。この操作により、実行されてきた下書きの変更を破棄します。
重複したレコード	レコードのコピーを作成します。
新規レコードを派生させる	関連する書誌レコードとデフォルトのテンプレートに基づいて、新しい書誌レコードを作成します。さらに、773または775フィールドでサポートされる関係も含まれます。詳細については、 新しい書誌レコードの派生 - MARC 21 および 新しい書誌レコードの派生 - UNIMARC を参照してください。
統合して結合する	2つの書誌レコードを統合し、それらの2つの書誌レコードの目録を1つの書誌レコードの下に統合します。統合プロセスの結果、目録が残っていない書誌レコードを削除、非公開もしくは所蔵するオプションを選ぶことができます。詳細については、 書誌レコードの統合 を参照してください。
検証 (Ctrl + U)	書誌レコードで検証ルーチンを実行します。検証で生じた問題は、アラートタブに表示されます。検証ルーチンは、[リソース]の[メタデータ設定]で設定されます。詳細については、 検証ルーチンの編集 を参照してください。
ネットワークゾーンで検証を実行する	ネットワークゾーンの検証ルールに従って、ローカル書誌レコードを検証します。 ローカルゾーンとネットワークゾーンの書誌レコードのコピーおよび/またはリンク を参照してください。
一致を検索 (Ctrl+M)	<p>書誌：</p> <p>ローカルレコードを編集するときは、まずローカル目録に現在のレコードと一致するものがあるかどうかを確認してください。コミュニティゾーンにリンクされているレコードを編集する場合、コミュニティゾーンに現在のレコードと一致するものがあるかどうかを確認します。使用する正しい一致プロファイルを定義するには、serial_match_profileおよびnon_serial_match_profileの適切なファイルキーを設定する必要があります (その他の設定 (リソース管理)を参</p>

アクション	説明
	<p>照)。</p> <p>権限： MDエディタで典拠レコードを編集しているときに、重複している典拠標目コンテンツを含むレコードを表示します。 一致が見つかった場合、レコードを表示したり編集したりするオプションが表示されます。</p>
<p>リンケージ情報を表示する</p>	<p>機関がサブフィールド \$\$6 を有するフィールドを使用して代替グラフィック表現を使用している場合は、このオプションをオンとオフに切り替えて、これらのリンクされたフィールドを表示および非表示にします。</p> <p>たとえば 書誌レコードにリンクされた880フィールドの操作 を参照してください。</p>
<p>メモを追加</p>	<p>レコードにメモを追加する場合に選択します。</p> <p>レコードにメモがある場合、</p> <p>メモアイコンは、レコードリストと編集パネルのヘッダーの両方に表示されます。ただし、編集パネルのヘッダーをクリックすると、[メモの表示] ペインが開き、レコードリストには表示用のみ存在します。</p>  <p>または、レコードのメモを表示するには、[関連データの表示] > [メモの表示] を選択します。</p>
<p>別の目録者にレコードを割り当てる</p>	<p>レコードを別の目録者に再度割り当てます。現在MDエディタで開いているレコードは、リスト上で太字で表示され、[ツール > メモを表示する] 下のメモに追加されます。</p> <p>MDエディタで開いているレコードのリストにレコードが太字で表示され、[関連データの表示] > [メモの表示] の下にメモが追加されます。新しい目録者にメールで送信するには、[Eメールとして送信] チェックボックスをオンにします。割り当て先レターが送信されます。詳細については、Almaレターの設定 を参照してください。</p>
<p>割り当てを解除する</p>	<p>自分に割り当てられている書誌レコードのロックを解除して、他の誰かが作業できるようにします。</p>
<p>別の目録作成者の解除レコード</p>	<p>特定のユーザーに割り当てられているすべての書誌および所蔵レコードを解除します。以前の機能と同様に、解除されたレコードは割り当て解除状態になり、他のすべての目録者が処理できるようになります。</p> <p>レコードの編集中は、編集を実行しているユーザーが使用中のため、レコードはロックされます。ロックされたレコードの詳細については、作業中のロックされたレコード を参照してください。</p>
<p>ディスカバリーから非公開にする (Alt+Shift+S)</p>	<p>チェックボックスを選択して、レコードがエンドユーザーディスカバリーシステムに公開されないようにします (Primo、Google Scholar、Primo Central、Z39.50 または Libraries Australia の所蔵のみ)。 チェックボックスをオフにすると、公開に含まれます。</p> <p>レコードが抑制されている場合、抑制アイコンは  。</p> <p>MDエディタの左側のペイン、レコードヘッダー、およびリポジトリ検索結果のレコードの横に表示されます。</p> <hr/> <p>Note</p> <p>収集レコードを抑制することもできます。ただし、コレクション内のレコードは引き続き検出可能です。</p> <hr/>

アクション	説明
外部検索からの抑制	外部システムによる検索からレコードを除外します。
MARC書誌：	
レコードを総合目録に投稿 (Ctrl+Alt+C)	<p>外部総合目録に変更を投稿します。〔主要目録統合プロファイル〕を設定した場合にのみ表示されます。Alephセントラル目録の統合を参照してください。</p> <p>ネットワークゾーンで作業する場合、一元管理されたレコードでメンバーの1人によって行われた更新が総合目録レコードにも自動的に保存されるようにすることができます。これにより、「レコードを総合目録に提供する」オプションを使用する必要がなくなりました。総合目録での自動保存を有効にするには、Aleph総合目録の統合プロファイルで総合目録の自動提供チェックボックスを選択します（Almaの設定 > 統合プロファイル > Alephシステム > アクションタブ）。</p>
レコードバージョンを総合目録に調整する	このオプションは、SBNのための総合目録統合プロファイルが定義されている場合にのみ有効になります。詳細については、 レコードバージョンとSBNの調整 を参照してください。
中央目録のレコードを統合 (Alt+Shift+T)	Almaから直接FusioneレコードのSBNを更新する場合に選択します。SBN書誌と典拠(AU、MA、TU、UM、SO、CL)の両方のレコードタイプの場合に利用可能です。このオプションは、SBNのための総合目録統合プロファイルが定義されている場合にのみ有効になります。このオプションはUNIMARC書誌と典拠レコードでのみ使用できます。
配架場所情報を管理する (Alt+Shift+L)	このオプションは、SBNのための総合目録統合プロファイルが定義されている場合にのみ有効になります。詳細については、 場所情報の送信とAlmaのUNIMARC 899フィールドの更新 を参照してください。
MARC典拠	
MARC典拠オプションは、MARC 21、UNIMARC、GNDなどの典拠レコードで使用できます。	
典拠レコードの配架場所の変更	<p>典拠レコードを使用して下書きモードで作業しているときに、レコードの配架場所をコミュニティゾーン、ネットワークゾーン、または機関ゾーンに変更することができます。【権限の配置の変更】を選択すると、[新しい典拠レコードの配置]ダイアログボックスで提供されるオプションは、ローカル管理またはコミュニティ管理の典拠レコードのメタデータ構成の設定方法によって異なります（MDエディターでのグローバル権限の表示とアクセスの制御を参照）。</p> <p>典拠レコードを保存すると、【権限の配置の変更】オプションが無効になります。レコードの配架場所を変更することができなくなります。</p>
こちらも参照	典拠レコードの5XXフィールドにフォーカスして、編集中の典拠レコードとリンクされた典拠レコードの両方のレコードを表示します。テキスト一致を使用するポキャプラリの場合、一致する典拠レコードが複数存在する場合があります、その際はすべての典拠レコードがリスト化されます。
管理タグの設定	
WorldCatにエクスポートする	<p>OCLC同期に設定/解除するレコードにタグを付けます。</p> <p>次のオプションのいずれかを選択して、レコードの処理方法を指定します。〔公開しない〕、〔所蔵のみを公開〕、〔書誌レコードを公開〕。</p> <p>〔書誌レコードの公開〕オプションは、次のワークフローでデフォルト設定になっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> MDエディターで新規書誌レコードを作成

アクション	説明
	<ul style="list-style-type: none"> ・ [外部リソースを検索する] かた目録をコピー ([リソース > カタログ > 外部リソースを検索する]) ・ コミュニティゾーンから書誌レコードをオーダーする ・ コミュニティゾーンから書誌レコードをコピー/リンクする <p>OCLC Connexionの場合、値はOCLC Connexion統合プロファイルに従って決定されます。詳細については、OCLC Connexionからのレコードのインポートを参照してください。</p> <hr/> <p>Note</p> <p>OCLCにエクスポートされ、このエクスポートパラメーターを別の値に変更することによって非公開にされたレコードは、削除済みとして公開されます。</p>
WorldCatへの強制エクスポート	<p>OCLCへの次のエクスポートで、書誌レコードにリンクされた所蔵レコードを含みます。</p> <p>所蔵レベル (LHR) を公開する場合、所蔵レコードは 変更された場合にのみ再公開されることに注意してください。また、所蔵レコードがアップデートされると、削除された所蔵を含む、書誌レコードにリンクされているすべての所蔵レコードと一緒に再公開されることにも注意してください。</p>
Libraries Australiaへのエクスポート	<p>Libraries Australiaとの同期を設定/解除するレコードをタグ付けます。ラジオボタンを選択して、公開しない または 書誌を公開する のいずれかでレコードを処理するかを指定します。書誌レコード管理タグがオーストラリア図書館へエクスポートについて書誌を公開するに設定されている場合、所蔵レベルの非表示は、レコードがオーストラリア図書館に公開されているかどうかを決定する要因となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 書誌レコードが非表示になっているが、所蔵が非表示になっていない場合、レコードはオーストラリア図書館に公開されています。 ・ 書誌レコードが非表示ではなく、所蔵が非表示になっている場合、レコードはオーストラリア図書館に公開されていません。
Libraries Australiaへの強制エクスポート	<p>Libraries Australiaへの次のエクスポートで、書誌レコードにリンクされた所蔵レコードを含みます。</p>
注文明細を作成 (オーダー)	<p>アクティブなレコードの書誌情報に基づいて注文明細を作成します。これには、目録オペレータの役職アクセス許可が必要です。詳細については、注文明細の手動作成を参照してください。</p>
レコードをセントラル目録に提供	<p>外部総合目録に変更を投稿します。[主要目録統合プロファイル]を設定した場合にのみ表示されます。Aleph主要目録の統合を参照してください。</p>
目録にコピーする	<p>共有したい書誌レコードを機関のローカルリポジトリ (機関ゾーン) にコピーします。コピーしたレコードは、コミュニティゾーンからのリンクが解除されている状態です。</p> <p>その後の有効化操作では、コピーされた書誌レコードを機関ゾーンに再度コピーすることはできません。重複を防ぐために、Almaは元のシステムIDを識別しようとします。また、機関ゾーンの書誌レコードと一致する場合は、機関ゾーンの書誌レコードが使用されます。</p>
ネットワークで共有	<p>ローカルで作成したレコードをネットワークゾーンに共有します。共同ネットワークでのネットワーク管理レコードを参照してください。</p>
ネットワークで検証する	<p>ネットワークゾーンの検証ルールに従って、ローカル書誌レコードを検証します。ローカルおよびネットワークゾーンの書誌レコードのコピーやリンクを参照してください。</p>
書誌からの更新	<p>以下のルールに従って、所蔵レコードの852フィールドに書誌レコードのフィールドを追加します。</p>

アクション	説明
	<ul style="list-style-type: none"> 0インジケータの場合、hおよびiサブフィールドを、書誌レコードの090 aおよびbサブフィールドの内容にそれぞれ置き換えます。書誌レコードに090フィールドがない場合、代わりに050 aおよびbサブフィールドが使用されます。 1インジケータの場合、hおよびiサブフィールドを、書誌レコードの082 aおよびbサブフィールドの内容にそれぞれ置き換えます。 2インジケータの場合、hおよびiサブフィールドを、書誌レコードの060 aおよびbサブフィールドの内容にそれぞれ置き換えます。 3インジケータの場合、hおよびiサブフィールドを、書誌レコードの086 aおよびbサブフィールドの内容にそれぞれ追加します。hおよびiサブフィールドがすでに入力されている場合、それらの値はそのまま、置き換えられません。 8インジケータの場合、書誌レコードの084 aサブフィールド値を、連結したhサブフィールドに追加します。(hサブフィールドがすでに入力されている場合、その値はそのままです。) また、iサブフィールドを連結した084 bサブフィールド値に置き換えます。 <hr/> <p>Note</p> <p>上記のルールはすぐに利用可能な設定であり、請求番号マッピングページで定義されます。詳細については請求番号の所蔵へのマッピングを参照してください。</p> <hr/> <p>書誌から [アップデート] オプション ([ツール > MARC21 ホールディングス > 書誌からアップデート]) を使用すると、インポートした請求番号の正規化後に所蔵レコードサブフィールドが並べ替えられます。サブフィールドは次の順序で並び替えられます: 6、8、3、および英数字の任意のアルファベットのサブフィールド (a、A、1)</p> <p>852のサブフィールドは、次の順序で並べ替えられます: 6、8、3、および英数字順の任意のアルファベットのサブフィールド (a、A、1)。ただし、tはbの直後、kはhの直前でその後2がきます。</p>
別のレコードに再リンクする	所蔵レコードを別の書誌レコードに再リンクさせます。詳細については、 冊子レコード間の所蔵の移動 (再リンク) を参照してください。
次に予測されるアイテムの情報	予測パターン を参照する。
予測アイテムを開く	予測パターン を参照する。
典拠レコードの配架場所の変更	<p>典拠レコードを使用して下書きモードで作業しているときに、レコードの配架場所をコミュニティゾーン、ネットワークゾーン、または機関ゾーンに変更することができます。[典拠レコードの配架場所の変更]を選択した場合、[新規典拠レコードの配架場所] ダイアログボックスにオプションが表示されます。この設定はローカル管理またはコミュニティ管理の典拠レコードに対するメタデータの設定方法によって異なります (MDエディタでのグローバル典拠の表示とアクセスの制御を参照)。</p> <hr/> <p>Note</p> <p>典拠レコードを保存すると、[典拠レコードの配架場所の変更] オプションは無効になります。レコードの配架場所を変更することができなくなります。</p>
こちらも参照	典拠レコードの5XXフィールドにフォーカスして、編集中の典拠レコードとリンクされた典拠レコードの両方のレコードを表示します。テキスト一致を使用するポキャプラリーの場合、一致する典拠レコードが複数存在する場合があります。その際はすべての典拠レコードがリスト化されます。
レコードの削除 (Ctrl + D)	<p>このオプションは、拡大目録者の役職を持つユーザーに対して有効になります。コミュニティゾーンにリンクされている書誌レコードで作業している場合、このオプションはグレー表示されることに注意してください。[レコードの削除] 機能は、次のものを削除します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 書誌レコード (単独) 1つ以上の所蔵レコードを含む書誌レコード

アクション	説明
	<ul style="list-style-type: none"> 書誌レコード、所蔵レコード、および1つ以上のそれらのアイテム（アイテムのステータスが〔貸出〕でない場合に限る） 注文明細の書誌レコード（注文明細が添付されている書誌レコードを削除すると、注文明細も削除されることを示すメッセージが表示されます） <p>書誌レコードの一括削除の詳細については、書誌レコードのセットを削除を参照してください。</p>
<p>[アクションの編集]メニュー</p>	
<p>フィールドを追加 (F8)</p>	<p>目録化する際にフィールド値を設定できる新しい空の行を追加します。</p> <hr/> <p>Note</p> <p>または、F8を押して新しいフィールドの行を追加します。</p> <hr/> <p>追加されるフィールドや行がLDR、005、008などのコントロールフィールドである場合、ファーストとセカンドインジケータのスペースは表示されません。一部のフィールドではゼロを入力することで、ファーストインジケータとセカンドインジケータを3桁で表示する必要があるフィールドが存在します。以下の図を参照してください。</p>  <p>The figure consists of three screenshots of a terminal window showing an LDR record. Each screenshot shows a new field being added to the record. In the first screenshot, field 005 is added. In the second, field 94 is added. In the third, field 094 is added. The field numbers are highlighted with red boxes, and the corresponding field values are entered in the adjacent boxes.</p>
<p>サブフィールドを追加 (F9)</p>	<p>アクティブなフィールドでのインライン目録を許可するために、定義された区切り記号（たとえば、\$\$や±）を使用して新しいサブフィールドを追加します。</p> <hr/> <p>Note</p> <p>または、F9を押して新しいフィールドのサブフィールドセパレータを追加します。</p>
<p>フィールドを削除 (Ctrl+F6)</p>	<p>このオプションを使用して、1つ以上のフィールドを削除します。</p>

アクション	説明
	<p>削除する行を選択するか、Ctrl + selectを使用して複数の行を選択し、[フィールドの削除]またはCtrl + F6を選択します。</p>
<p>フィールド情報 (Alt+F)</p>	<p>このオプションを選択すると、編集しているフィールドの単語説明が表示されます。フィールド情報は、編集中のレコードの横にエディタ分割モードで表示されます。</p>  <p>Alt+Fはフィールドごとです。別のフィールドのフィールド情報を表示するには、再度Alt+Fを選択します。</p> <p>または、フィールド情報を表示するには、フィールドの右側を</p>  <p>選択します。</p>  <p>フィールド情報はヘルプURLによって制御されます。フィールドの編集を参照してください。</p>
<p>切り取り (Ctrl+X)</p>	<p>選択したテキストを切り取ります。</p>
<p>コピー (Ctrl+C)</p>	<p>選択したテキストをコピーします。複数のフィールドを同時にコピーするには、Ctrlキーを押しながら、コピーするすべてのフィールドを選択します。</p>
<p>貼り付け (Ctrl+V)</p>	<p>先程カットまたはコピーしたテキストを貼り付けます。カーソルで指定した位置にフィールドが貼り付けられます。複数のフィールドを同時に貼り付けると、フィールドは数値のソート順に貼り付けられます。</p>
<p>レコードの強化 (Ctrl+Alt+EまたはCtrl+Alt+W)</p>	<p>事前設定された正規化手順を実行します。正規化はメタデータレコードの修正または更新を目的としています。たとえば、レコードのフィールドの並べ替え、空のフィールドの削除、オーダー情報を含むフィールドの削除が可能です。詳細については、「正規化ルールで作業する」を参照してください。</p> <p>ネットワークゾーンレコードで作業する場合、この機能は共有フィールドにのみ適用され、ローカルフィールドには適用されません。ローカルフィールドで正規化ルールを実行する場合は、ローカルフィールドにのみ適用される書誌正規化ジョブ（定義済みセットでの手動ジョブの実行を参照）のいずれかを使用してください。</p>
<p>テンプレートから展開 (Ctrl+E)</p>	<p>指定されたテンプレートを使用して、レコードのデータフィールドを展開します。レコードのタイプは、書誌、所蔵および典拠のいずれかです。</p> <p>メタデータ エディタで複数のパネルが開いている場合、[テンプレートから展開する]機能がフォーカスされているパネルに適用されます。</p>

アクション	説明								
	<p>詳細については、テンプレートからのレコードの展開 および レコードテンプレートの操作を参照してください。</p>								
<p>著者番号を生成 (F4)</p>	<p>著者番号を生成</p> <p>著者番号は、次のものに対して生成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 090ローカル請求番号フィールド <p>詳細については、KORMARC書誌レコードにおける090ローカル請求番号フィールドのための著者番号の自動生成を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 著者一覧 (Cutter Sanborn Three-Figure Author Table) を使用したMARC 21書誌レコードの905ローカル請求番号フィールド <p>詳細については、著者番号の自動生成を参照してください。</p>								
<p>代替グラフィック表現を追加する (Alt+F1)</p>	<p>alternative_graphic_representation_editingパラメータをTrueに設定すると、[代替グラフィック表記の追加] オプションを使用して、リンクされた880フィールドを作成できます。詳細については、alternate_graphic_representation_editingを参照してください。有効にすると、[編集アクション]メニューで次のオプションが有効になります:</p> <ul style="list-style-type: none"> スクリプトを変更する [フィールドをリンク] [フィールドのリンクを解除] フィールドを反転する <p>このパラメータがFalseに設定されている場合、このオプションを使用すると、880リンケージを複雑にすることなく、ペアのフィールドを編集できます。たとえば、245フィールドが選択されている場合、このオプションを使用すると、入力に関連するスクリプトを選択することができます。指定されたスクリプトに入力するための追加の行がエディタで開かれます。</p> <p>詳細については、書誌レコードのリンクされた880フィールドの操作を参照してください。</p>								
<p>方向特性文字の表示</p>	<p>目録化する際に、方向制御特性文字を表示するには、このオプションを選択します。これらの文字は、左から右へと書く言語と右から左へと書く言語の両方を持つテキストを目録化する際に、テキストの方向を制御するために使用されます。右から左へ入力するブライ語のタイトルに、左から右に入力するラテンC++と、テキストの一部として「および▼」方向記号が付く場合の入力例については、以下を参照してください。</p>  <p>方向制御特性文字</p> <p>このメニューオプションを選択すると、テキストの方向の変化を表す記号がテキストに表示されます。文字の方向制御特性を表わすグラフィック表記については、以下の表を参照してください。【方向特性文字の表示】を選択したときに表示されるグラフィック表記の後に、方向を制御する非表示のUNICODE文字が続きます。</p> <p>方向特性文字をコピー/貼り付けまたは切り取り/貼り付けする場合は、方向特性文字を正常に貼り付けるために、非表示のUNICODE方向特性文字とその前に追加されるグラフィカル表記の両方をコピー/切り取りする必要があることに注意してください。</p> <p style="text-align: center;">方向制御特性文字</p> <table border="1" data-bbox="329 1787 1507 1940"> <thead> <tr> <th>方向</th> <th>説明</th> <th>グラフィック表記</th> <th>キーボードショートカット</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>左から右へマー</td> <td>テキストを左から右に入力します。</td> <td>→</td> <td>Ctrl+Alt+G</td> </tr> </tbody> </table>	方向	説明	グラフィック表記	キーボードショートカット	左から右へマー	テキストを左から右に入力します。	→	Ctrl+Alt+G
方向	説明	グラフィック表記	キーボードショートカット						
左から右へマー	テキストを左から右に入力します。	→	Ctrl+Alt+G						

アクション	説明																								
	<table border="1" data-bbox="329 216 1507 724"> <thead> <tr> <th>方向</th> <th>説明</th> <th>グラフィック表記</th> <th>キーボードショートカット</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>右から左へマーク</td> <td>テキストを右から左に入力します。</td> <td>←</td> <td>Ctrl+Alt+M</td> </tr> <tr> <td>左から右への埋め込み</td> <td>右から左に入力されるテキスト内に、左から右のテキストを埋め込みます。</td> <td>⌈</td> <td>Ctrl+Alt+D</td> </tr> <tr> <td>右から左への埋め込み</td> <td>左から右に入力されるテキスト内に、右から左のテキストを埋め込みます。</td> <td>⌋</td> <td>Ctrl+Alt+N</td> </tr> <tr> <td>ポップ方向の書き設定</td> <td>このオプションを選択すると、以前の入力方向に戻ります。</td> <td>▼</td> <td>Ctrl+Alt+P</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="329 745 1469 777">[方向特性文字を表示] を選択してシンボルを表示すると、このオプションの左側にチェックマークが表示されます。</p> <div data-bbox="329 798 706 861" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">  </div> <p data-bbox="329 882 641 913">選択された方向特性文字を表示</p> <p data-bbox="329 934 1494 997">このオプションをもう一度選択すると、オフになります。これを行うとこのオプションの左側のチェックマークが表示されなくなります。</p> <p data-bbox="329 1018 1339 1050">ヘブライ語での目録の詳細については、ヘブライ語での目録における特別な問題を参照してください。</p>	方向	説明	グラフィック表記	キーボードショートカット	ク				右から左へマーク	テキストを右から左に入力します。	←	Ctrl+Alt+M	左から右への埋め込み	右から左に入力されるテキスト内に、左から右のテキストを埋め込みます。	⌈	Ctrl+Alt+D	右から左への埋め込み	左から右に入力されるテキスト内に、右から左のテキストを埋め込みます。	⌋	Ctrl+Alt+N	ポップ方向の書き設定	このオプションを選択すると、以前の入力方向に戻ります。	▼	Ctrl+Alt+P
方向	説明	グラフィック表記	キーボードショートカット																						
ク																									
右から左へマーク	テキストを右から左に入力します。	←	Ctrl+Alt+M																						
左から右への埋め込み	右から左に入力されるテキスト内に、左から右のテキストを埋め込みます。	⌈	Ctrl+Alt+D																						
右から左への埋め込み	左から右に入力されるテキスト内に、右から左のテキストを埋め込みます。	⌋	Ctrl+Alt+N																						
ポップ方向の書き設定	このオプションを選択すると、以前の入力方向に戻ります。	▼	Ctrl+Alt+P																						
方向特性文字を挿入	<p data-bbox="329 1113 1502 1186">目録化するフィールド/サブフィールドのテキストを入力する方向を識別するには、このメニューアイテムから方向オプションのいずれかを選択します。もしくはこのメニューリストに表示されるキーボードショートカットを使用することができます。詳細については、上の表を参照してください。</p> <p data-bbox="329 1218 1502 1312">メニューからこれらのオプションのいずれかを選択した際に、[方向特性文字の表示] を選択すると、入力を開始するまで方向記号が表示されないという問題があります。ただし、キーボードショートカットを使用して方向を変更すると、すぐに方向記号が表示されます。</p>																								
受入番号を生成する (Ctrl+Shift+A)	<p data-bbox="329 1386 673 1417">所蔵レコードでのみ使用できます。</p> <p data-bbox="329 1438 1502 1501">選択すると、アイテムの所蔵レベル情報がアップデートされ、請求番号が生成されます。詳細については、保留レベルの請求番号の生成を参照してください。</p>																								
<p data-bbox="129 1585 365 1617">目録メニューを追加する</p> <p data-bbox="129 1638 1015 1669">[目録の追加]メニューを使用して、書誌レコードに追加する目録のタイプを選択できます。</p> <hr/> <p data-bbox="146 1711 203 1743">Note</p> <p data-bbox="146 1774 755 1806">典拠レコードの[目録の追加]メニューは無効になっています。</p>																									

アクション	説明
所蔵を追加	<p>現在の書誌レコードにリンクされている所蔵レコードを追加します。</p> <p>所蔵オプションは新規メニューと目録を追加メニューに同じものがあります。[新規]メニューで行うのと同じ方法で、所蔵の作成に使用するテンプレートを選択できます。</p>
アイテムを追加	<p>冊子を追加します。[冊子エディタ]に移動して、この所蔵レコードにアイテムを追加します。これは所蔵レコードに対してアクティブです。</p>
ポートフォリオを追加	<p>ポートフォリオを追加〔既存タイトルを使用〕ラジオボタンを選択し、〔新規ポートフォリオ〕ページを開き、〔タイトルの選択〕フィールドの赤いアスタリスクが付いた必須フィールドを入力してください。詳細についてはローカルポートフォリオの管理セクションを参照してください。</p>
〔表記を追加〕	<p>表記を追加表記を書誌レコードに追加するために、〔表記の詳細〕ページを開きます（MARCレコードのみ）。詳細については、表記の追加を参照してください。</p>
関連データメニューを表示する	
目録の表示 (Ctrl+I)	<p>書誌レコードにリンクされている次の目録をチェックし、結果を分割エディタモードで表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 所蔵 <ul style="list-style-type: none"> 注：MDEditorで所蔵資料を操作するために必要な許諾がない場合、編集ボタンは無効になります。 ポートフォリオ <ul style="list-style-type: none"> 注：編集および削除アクション（削除は電子目録拡大オペレーター役職の場合のみ）は、役職のスコープがリソースで選択されたライブラリと一致するユーザーに対してのみ有効です。詳細は、電子リソースに設定されたライブラリを参照してください。 表記（デジタル）次のアクションが利用可能です。 <ul style="list-style-type: none"> 〔表記の追加〕 - タイトルに表記を追加します。詳細については、表記の追加を参照してください。 〔編集〕 - デジタル表記リソースエディターで表記を編集します。詳細については、代表のメタデータとコンテンツの編集を参照してください。 〔表示〕 - デジタル表記リソースエディターで表記を表示します 〔配信〕 - Almaビューアで表記ファイルを表示します。詳細についてはAlmaビューアを参照してください。 電子コレクション <ul style="list-style-type: none"> 注：編集および削除アクション（削除は電子目録拡大オペレーターの役職の場合のみ）は、役職のスコープがリソースで選択されたライブラリと一致するユーザーに対してのみ有効です。詳細は、電子リソースに設定されたライブラリを参照してください。 <p>書誌レコードは、冊子、デジタルまたは電子リソースにリンクすることができるため、リスト化された際にすべて表示されることがあります。</p>
ノートを表示する (Ctrl+Shift+N)	<p>作業コピーのメモを表示します。</p>
関連する書誌レコードを表示する (Ctrl+Shift+B)	<p>表示しているプライマリレコードに関連する書誌レコードを表示します。</p>
バージョンを表示する (Alt+Shift+V)	<p>このオプションを使用して、書誌、所蔵、および典拠レコードを編集しているときに、レコードの以前のバージョンを表示および復元します。</p>

アクション	説明
	<div data-bbox="328 214 826 327" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="328 359 638 384">以前のバージョンの表示と復元</p> <p data-bbox="328 426 1507 577">ユーザー役職に対して [レコードバージョンの復元]特権が無効になっている場合、[復元]オプションは表示されないことに注意してください。デフォルトでは、目録者、目録マネージャー、目録管理者、および拡大目録者の役職に対して、レコードバージョンの復元特権が有効になっています。レコードバージョンの復元特権が無効になっている場合でも、役職をもつユーザーはレコードの過去のバージョンを表示することができます。詳細については、権限レポートを参照してください。所属機関で複数の役割を設定する場合は、サポートに連絡してください。</p> <p data-bbox="328 609 1507 699">バージョンカウンターは、レコードの最初の変更後に開始されます。インポートまたはメタデータ エディタでの手動によるレコードの作成は、バージョンとしてカウントされません。その結果、新しいレコードの[バージョンの表示]を選択すると、システムは「リビジョンが見つかりませんでした」というメッセージで応答します。</p> <div data-bbox="328 722 826 846" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="328 871 1507 928">レコードへの最初の変更後、バージョンカウンターが開始します。[バージョンの表示]を選択すると、[バージョン]タブで分割画面モードでメタデータ エディタが開きます。</p> <div data-bbox="328 953 826 1123" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="328 1148 1507 1205">上の図の [バージョン：1] は、レコードに最初の変更が加えられたことを示しています。その後は変更のたびにバージョン番号が増えていきます。</p> <p data-bbox="328 1234 761 1260">[作成者：] ラベルの後には次が続きます。</p> <ul data-bbox="342 1289 987 1314" style="list-style-type: none"> • 前のインスタンスのレコードを作成したユーザーのユーザーID <p data-bbox="370 1341 1507 1432">上の図では、インポートプロセスによって作成された前のインスタンスのレコード、ユーザーIDとしてインポートと示されています。これは現在の変更を行ったユーザーのユーザーIDではありません（その場合はバージョン：1で識別されます）。その代わりに、このIDは、復元可能な前のインスタンスのレコードに付加されたIDとなります。</p> <p data-bbox="370 1459 1507 1610">バージョン：1の [復元] オプションを選択すると、インポートによって作成された前のインスタンスのレコードが復元されます。その後の変更では、[作成者：] ユーザーIDが変更され、前のインスタンス/変更前のレコードのユーザーIDが反映されます。下の図に示すように、バージョン：2の [復元] オプションを選択すると、2016年10月21日PM17:39:35に管理者によって作成された前のインスタンスのレコードを復元します（日付の説明については、次の説明を参照してください）。</p>

Versions(2)

1 [Current trends in science education CC\(991185450000541\)](#)
 (Book: Center for Applied Research in Education, New York., [1966])
 Subjects: Science--Study and teaching.
 Other System Number: (TrN)4253-train20072_c2db, 66015220
 Version: 2 Created By: User, Admin (21/10/2016 18:32:30 PM IDT)
 Cataloging Level: 00

2 [Current trends in science education\(991185450000541\)](#)
 (Book: Center for Applied Research in Education, New York., [1966])
 Subjects: Science--Study and teaching.
 Other System Number: (TrN)4253-train20072_c2db, 66015220
 Version: 1 Created By: import (21/10/2016 17:39:35 PM IDT)
 Cataloging Level: 00

Note

〔オペレータ〕列は、マネージャーと管理者のみに表示されます。[オペレータの詳細を表示するユーザー機能の設定](#)を参照してください。

- 最新変更日（バージョン）：

Version: 1 Created By: import (21/10/2016 17:39:35 PM IDT)

バージョンタブに表示される日付は、レコードが変更された日付です。つまり上の図に示すように、〔バージョン：1〕および〔バージョン：2〕はバージョンの日付で識別されています。たとえば、〔バージョン：1〕の日付は、インポートユーザーによってレコードが作成された日付ではありません。代わりに、〔バージョン：1〕の変更日付を指します。インポートユーザーが元のレコードを作成したため、レコードが最初に作成された日付がレコードの内容の上に表示されます。

Working on -Current trends in sc (991185450000541) , Created by import (17/12/2011 22:57:16 PM IST)
 LDR 00779nam#a22002531##4500
 001 991185450000541

レコードの管理タグの変更のレコードバージョン：

ディスカバリからの抑制などの管理タグは、記録バージョンに記録され、レコードがいつ、誰によって抑制または抑制解除されたかを追跡できるようになります。レコードの管理タグが変更する時はいつでも、新しいバージョンが生成されて以前のタグ値を表示します。以前のバージョンを復元すると、メタデータにのみ影響し、カタログレベルや管理タグなど、バージョンページ上のその他の情報には影響しません。

Note

レコードの管理タグのレコードバージョンは、ローカルで行われた変更を表示する場合にのみ使用できます。コミュニティゾーンレコードのローカルで行われた変更を確認するには、[オリジナルレコードのバージョンを表示](#)を選択します。

レコードバージョンの変更に対して表示される管理タグレベルは次のとおりです。



- 検出から非公開にする



- 外部検索から非公開にする



- WorldCatにエクスポートする



-

アクション	説明
	<p>Libraries Australiaへのエクスポート</p>  <p>レコードの管理タグの変更に対するレコードバージョンラベル</p> <hr/> <p>Note</p> <p>2024年5月のリリース前に作成されたレコードバージョンでは、すべての管理タグにnull値が設定されます。管理タグの値は、レコードがその後更新されたときにのみ記録されます。したがって、その更新用に作成されたバージョンでは、リリース後の最初の更新を開始したユーザーが管理タグを既存の値に「更新」したように見える場合があります。</p>
元のレコードのバージョンを表示	ネットワークゾーンに保存する前に、ローカルレコードの以前のバージョンを表示します。共同ネットワークでのネットワーク管理レコードを参照してください。コミュニティゾーンレコードに保存されたローカルの 変更 を表示します。
コレクションを表示	<p>書誌レコードが割り当てられているコレクションを表示し、レコードのコレクションへの割り当てと割り当て解除を可能にします。詳細については、コレクションへのレコードの割り当てを参照してください。</p> <p>このオプションを表示するには、コレクション目録オペレーターの役職が必要であり、その範囲は機関に限定されている必要があります。</p>
書誌レコードの表示	分割エディタモードでMARC 21の 所蔵 を操作する場合は、関連する書誌レコードを表示します。
検索画面で表示する	リポジトリ 検索 ページで、レコードを結果リスト形式で表示します。
リンクされたデータを表示する	詳細については、 書誌レコードを操作しながらリンクされたデータを使用 を参照してください。
オーダーを表示	注文明細ページで注文明細リスト形式でレコードを表示します（オーダーがある場合に限る）。
オーダーメニュー	
オーダー	<p>選択したレコードの注文明細を作成する場合に選択します（これには、目録オペレーターの役職の権限が必要です）。</p> <p>〔注文明細の所有者とタイプ〕ページを開き（注文明細を手動で作成する際の最初のステップ）、MDエディタページを終了し、アクティブレコードの書誌情報に基づいて注文明細を作成します。</p>

アクション	説明
	<p>詳細については、注文明細の手動作成を参照してください。</p>
<p>検索とブラウザメニュー</p>	
<p>シェルリストを参照する (Alt+C)</p>	<p>請求番号を閲覧するために、次のオプションを表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 請求番号レベルドロップダウンリストから〔所蔵〕、〔代替請求番号〕、〔一時請求番号〕、または〔すべて〕を選択します。 請求番号タイプドロップダウンリストから、〔議会図書館分類〕や〔デューイ十進分類〕などの請求番号タイプを選択して参照します。このリストはシステムの設定方法によって異なります。 図書館 - ドロップダウンリストから〔図書館〕を選択して、特定の図書館を指定してブラウザ結果を制限します。 配架場所 - ドロップダウンリストから〔配架場所〕を選択して、特定の配架場所を指定してブラウザ結果を制限します。配架場所のオプションは、図書館を選択した後に有効になります。 請求番号 - 所蔵レコードの852 \$h, \$iフィールドの参照を実行するために、請求番号の値を入力します。 <p>この機能は、〔リソース > 目録 > シェルリストを参照する〕からでも有効になります。</p> <p>請求番号の〔説明〕列のリンクを選択すると、書誌レコードがメタデータ エディタで開かれ、編集できるようになります。請求番号の〔レベル〕列で〔所蔵〕リンクを選択すると、所蔵レコードがメタデータ エディタで開かれ、編集できるようになります。</p> <hr/> <p>Note</p> <p>この参照の動作方法を設定することはできません。</p>
<p>書誌見出しを閲覧する (Alt+H)</p>	<p>このオプションを使用して、選択した次の検索条件によって決定される書誌見出しを表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 見出しのタイプ ファミリー ソースコード 検索の値 <p>詳細については書誌標目のブラウズを参照してください。</p> <p>この機能は、〔リソース > 目録 > 書誌の標目をブラウズ〕からもアクセスすることができます。</p>
<p>検索リソース (Alt+E)</p>	<p>外部システムによる検索からレコードを除外します。</p>

MDエディタでの発音区別記号と特殊文字の入力

目録化する際に、MDエディタにて発音区別符号、特殊文字、または非ラテン文字を入力する必要がある場合があります。

MDエディタで発音記号または特殊文字を入力する方法

1. Windowsのスタートメニューから、〔すべてのプログラム〕 > 〔アクセサリ〕 > 〔システムツール〕 > 〔文字コード表〕を選択します。
2. 〔フォント〕ドロップダウンリストからフォントを選択します。
3. MDエディタに挿入する特殊文字を選択します。

4. [選択]を選択し、[コピー]を選択します。

5. MDエディタに文字を貼り付けます。

詳細については、[Almaで特殊文字を入力する方法](#)を参照してください。

UTF-8特殊文字（発音区別符号付き）は、書誌または典拠レコードの文字の合成バージョンまたは分解バージョンの両方で表示することができます。複数のレコードが合成された表現に変換されたことにより、それらが変更されるユースケースを避けるよう構成するため、特殊文字の合成バージョンを保存するように常にシステムを正規化に保存しておくオプションがあります。そのようなレコードは、優先語修正（PTC：Preferred-Term Correction）のためにマークされ、標目の更新を引き起こします（唯一の違いは特殊文字の合成または分解された性質）。このUTF-8特殊文字の処理方法について興味がある場合は、Ex Librisサポートにお問い合わせください。

KORMARCに非ファイリングマーカ/インジケータの使用

MARC 21での非ファイリングマーカ/インジケータの使用

MARC 21レコードの場合、Almaはファイリング以外のマーカとインジケータに関連する次の機能をサポートしています。

- 非ファイリングマーカを示すために山かっこ<<>>を使用する目録ルールがサポートされています。たとえば、ヘブライ語のコンテンツを含むMARC 21レコードを目録化する場合に山かっこが使用されます。
- 240および245フィールドの感度インジケータは、並べ替え機能を指定するために使用されます。

非ファイリングマーカとインジケータは、以下のテーブルの通り、表示、並べ替え/参照、目録化に使用されます。

コンポーネント	説明
表示	山かっこ内にテキストがある場合、テキストが表示される時にかっこが削除されます。
並べ替え/参照	並べ替えまたは参照の目的で、山かっこ内のテキストは無視されます。
MDエディタ	MDエディタでは、目録レコードが入力される領域に山かっこことかっこ内のテキストが表示されます。ただし、MDエディタでタイトルなどがテキスト表示される場合、山かっこは削除されます。

UNIMARCにおける非ファイリングマーカの使用

UNIMARCレコードの場合、Almaはさまざまな地域で使用される山かっこ<<>>の目録ルールをサポートし、非ファイリングマーカを活用していきます。たとえば、UNIMARCでは山かっこを使用して、フィールドの先頭（または中央）に||や|eなどのファイリングしないテキストを指定することができます。

非ファイリングマーカで山かっこを使用する場合には、Almaが表示、並べ替え/参照、目録を処理する方法を説明する上記の表を参照してください。例については、以下の図を参照してください。

Working on -Gli Traducibilit? e (99207937300521) , Created by a

LDR	00320nam##2200133###450#
001	99207937300521
005	20171013092449.0
100	\$\$a 20171011d2004----km-y0itay50----ba
101 0	\$\$a ita
123	\$\$d n
200 1	\$\$a <<Gli>> Traducibilit? e processi traduttivi
210	\$\$a Perugia \$\$c Guerra \$\$d c2004
215	\$\$a 197 p. \$\$d 24 cm

MDエディタでの非ファイリングマーカ-の処理 (目録と表示)

1  **Gli Traducibilit? e processi traduttivi**
 Book (Perugia : Guerra, c2004) Language: Italian

Physical Electronic Digital [Other details](#)

検索結果での非ファイリングマーカ-の処理

KORMARCに非ファイリングマーカ-/インジケ-タの使用

KORMARCレコードを使用する場合、Almaリポジトリでの検索と標目の参照が拡張され、非ファイリング指針と文字を含むレコードを処理するロジックが含まれるようになります。並べ替えられた結果リストは、標目参照時に、非ファイリング文字を無視します。たとえば、a、an、theなどの冠詞は無視できます。

KORMARCでは、非ファイリング文字は、以下の表に示すように、\$aの先頭にある非ファイリングテキストをカッコで囲み、ファ-ストまたはセカンドインジケ-ター位置でインジケ-ター値1を囲むことで識別されます。

Working on -The Journal of produ (99207936900521) , Created by admin (2012:52:21 CDT)

LDR	00253nas#a2200097#c#4500
001	99207936900521
005	20171013125207.0
008	171013#####s2015#####ulk#####0eng##kor##
245 0 1	\$\$a (The) Journal of product innovation management
310	\$\$a Quarterly
500	\$\$a KORMARC

非ファイリング文字を含むKORMARC書誌レコード

インジケ-タ-の位置	KORMARCフィールド
1	630、740
2	130、222、240、242、243、245、440、490、730、830

ファイリング以外の文字は並べ替え目的で無視されますが、システムは完全なエントリを表示します。例：

- レコード: 245 0 1 \$\$a (The) Journal of product innovation management.

- 並べ替え: Journal of product innovation management.
- 表示: The Journal of product innovation management.

The screenshot displays a library catalog interface with three search results. The second result, 'The Journal of product innovation management', is highlighted with a red box. The interface includes a search bar at the top, a list of results, and a sidebar on the left with a search icon and a list icon. The results are numbered 1, 2, and 3. Each result includes a title, a description, and a list of options (Physical, Electronic, Digital, Other details). The second result is the only one with a red box around its title.

Result Number	Title	Medium Type	Language	Record Number
1	Journal of product & brand management [electronic resource].	[electronic resource]	English	(DE-599)ZDB2020682-3
2	The Journal of product innovation management		English	
3	Molecules [electronic resource] : a journal of synthetic chemistry and natural product chemistry.	[electronic resource]	English	(OCoLC)45128851

非ファイリング文字で並べ替えられたKORMARCの結果

上記と同じKORMARCレコードの例を使用して、次の検索のいずれかが指定された場合に結果は **The Journal of Product Innovation Management** が返されます。

- キーワード検索には **the** または **journal** が含まれます
- **the journal of product** または **journal of product** というフレーズを含む内容で検索
- **the journal of product** または **journal of product** で始める内容で検索